



個人投資家向け I R セミナー資料

東証 2 部 証券コード: 7677

株式会社ヤシマキザイ

2021年12月3日

(会場：公益社団法人日本証券アナリスト協会 日経茅場町別館 B 1 F)

株式会社ヤシマキザイとは

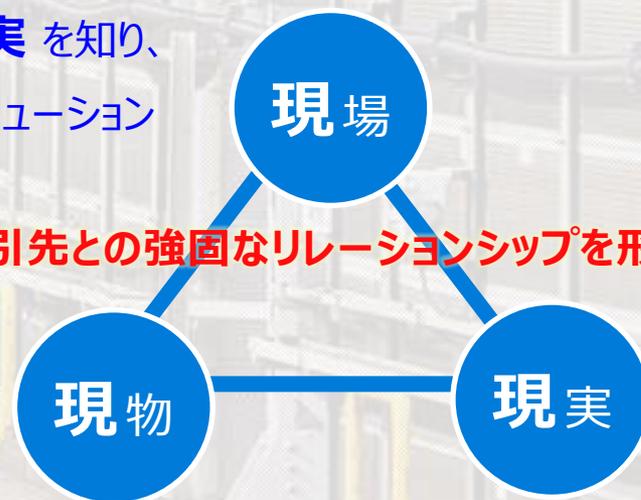
鉄道業界を主な市場として、商材やサービスを提供する商社です

3現主義を基軸に、鉄道業界で重要なポジションを確立しています

3現主義とは 10-500

顧客の **現場** に足を運び、**現物** に触れ、**現実** を知り、
顧客のニーズをくみあげ、仕入先に展開し、ソリューション
を組み立てることを意図しています。

取引先との強固なリレーションシップを形成



創業以来73年、3現主義で築き上げた

取引先との強固なリレーションシップを形成しています。

1 高い専門性と3現主義に根差した商社機能

- ・鉄道業界のワンストップ・ソリューションとして、存在価値を発揮しています。
長年の実績による専門性を有した国内外の拠点を通じて、
現場の要求や課題を取得、数百社の仕入先とのパイプ役に

2 業界で唯一、北海道から九州まで、全国を網羅するサービス網

- ・業界で唯一全国をカバーする現場力で差別化を図っています。
大手企業ではカバーできない小回りの良さ
現場密接を活かし、現場のニーズに基づいた商材・サービスを提供

3 鉄道業界の水先案内人としての海外展開力

- ・海外鉄道インフラ整備や、特殊車両等の販売で実績を得ています。
国内メーカーと海外のエンドユーザーの間を取り持ち、
ODAで検修設備案件等を取りまとめ

1. 2022年3月期 連結中間決算概況	P. 4
2. 2022年3月期 連結通期業績・配当予想	P.16
3. 2022年3月期～2024年3月期 中期経営計画	P.20
4. トピックス	P.26
5. ご参考資料	P.35

【ご注意事項】

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述している将来見通しとは、大きく異なる可能性があります。



1. 2022年3月期 連結中間決算概況

① 貸借対照表（連結）

【連結中間決算概況】

YASHIMA

- 販売業績の減少に伴い、売掛金・買掛金も減少して流動資産と流動負債が減少
- 現預金は、営業キャッシュ・フローの減少により、31%減少の4,826百万円も、借入金はなく、当座比率は8%ポイント上昇の151%と、当座資産は十分に確保
- その他の包括利益累計額の増加は、投資有価証券の時価評価差額等によるもの

金額単位 (百万円)	19/9末	20/9末	21/9末	前々年 同期増減	前々年 同期比	前年 同期増減	前年 同期比
【資産の部】							
流動資産	18,846	17,314	15,821	▲3,025	▲16.1%	▲1,493	▲8.6%
（うち、現預金）	(6,299)	(7,000)	(4,826)	(▲1,473)	(▲23.4%)	(▲2,174)	(▲31.1%)
固定資産	3,216	3,037	3,179	▲37	+1.2%	+142	+4.7%
資産合計	22,063	20,352	19,001	▲3,062	▲13.9%	▲1,351	▲6.6%
【負債の部】							
流動負債	12,435	10,685	8,888	▲3,547	▲28.5%	▲1,797	▲16.8%
固定負債	972	935	1,084	+112	+11.5%	+149	+16.0%
負債合計	13,408	11,620	9,973	▲3,435	▲25.6%	▲1,648	▲14.2%
【純資産の部】							
株主資本	8,228	8,525	8,526	+298	+3.6%	+1	+0.0%
その他の包括利益累計額	426	205	502	+76	+17.8%	+296	+144.9%
純資産合計	8,655	8,731	9,028	+373	+4.3%	+297	+3.4%
負債純資産合計	22,063	20,352	19,001	▲3,062	▲13.9%	▲1,351	▲6.6%

(参考) 当座比率 (当座資産÷流動負債) 143% → 151%

(参考) 流動比率 (流動資産÷流動負債) 162% → 178%

■ 売上高は前期から減少

【鉄道事業】前期以降新型コロナウイルス感染症の影響を受け、鉄道事業者の設備投資や修繕計画が抑制され、前期中に得る期待受注が減少となり、減収

【一般事業】先行きに不透明感はありながらも、自動車業界等の一部取引先業界の需要回復を受け、堅調に推移

■ 利益面は売上総利益の減少に加え、販管費の増加を受けて減益

売上総利益が前期比▲14.3%、新型コロナウイルス感染症に伴う移動制限等で、出張等の営業経費の削減状況は継続も、人員増に伴う人件費の増加等により、販売費および一般管理費は前期比+2.2%と営業利益を押し下げ、営業利益以下の段階利益は大きく減少

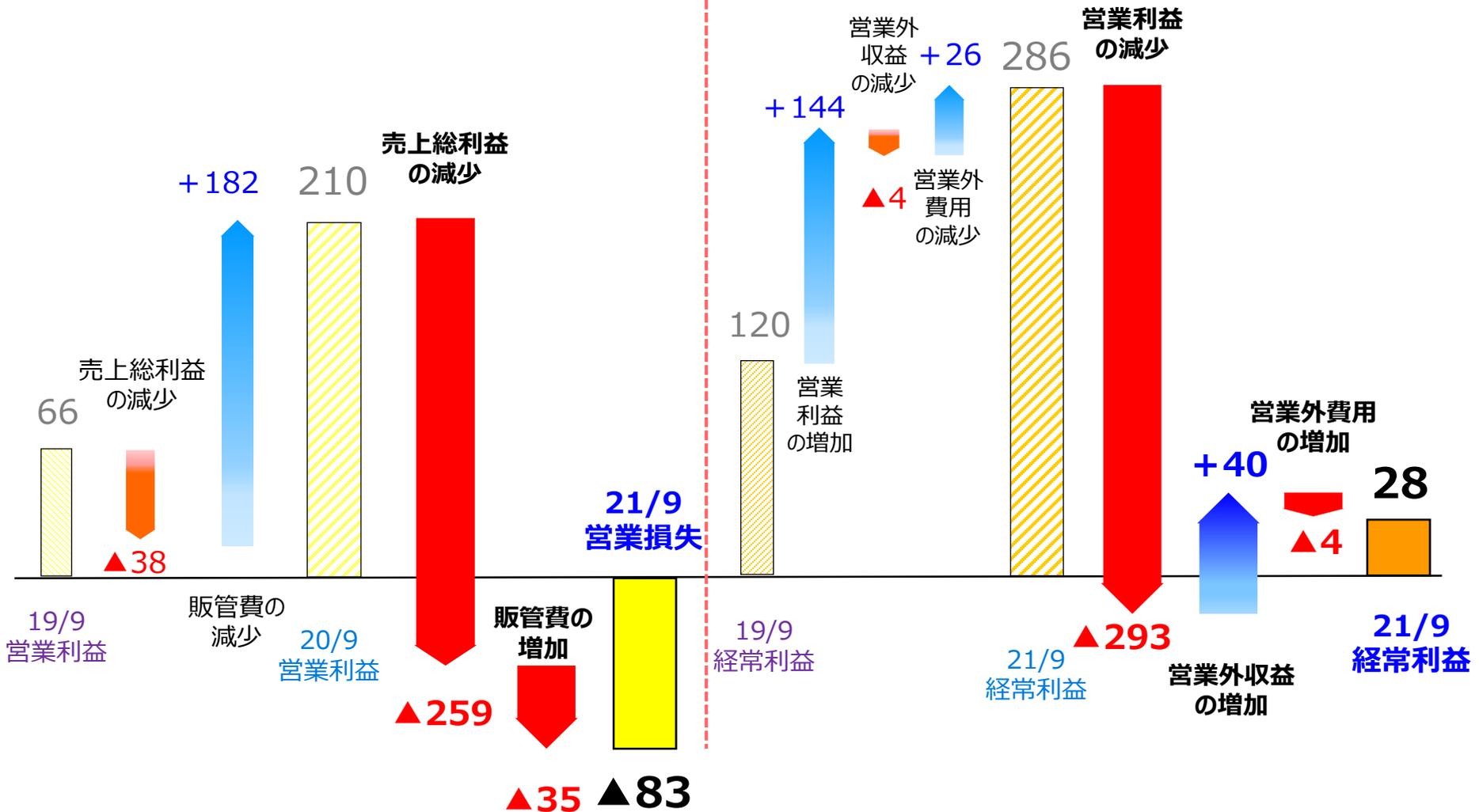
金額単位 (百万円)	19/9 累計実績	20/9 累計実績	21/9 累計実績	前々年 同期増減	前々年 同期比	前年 同期増減	前年 同期比
売上高	15,440	15,444	13,237	▲2,203	▲14.3%	▲2,207	▲14.3%
鉄道事業	13,859	14,160	11,816	▲2,043	▲14.7%	▲2,243	▲16.5%
一般事業	1,580	1,284	1,420	▲160	▲10.1%	+136	+10.6%
売上総利益	1,845	1,807	1,548	▲297	▲16.1%	▲259	▲14.3%
販売費および一般管理費	1,779	1,597	1,632	▲147	▲8.3%	+35	+2.2%
営業利益	66	210	▲83	▲149	-	▲293	-
営業外収益	90	85	125	+35	+38.5%	+40	▲5.5%
営業外費用	36	9	14	▲22	▲61.9%	▲4	▲72.9%
経常利益	120	286	28	▲92	▲76.7%	▲257	▲90.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	84	189	▲11	▲95	-	▲200	-

■ 営業利益・経常利益の減少要因

(金額 百万円)

営業利益

経常利益

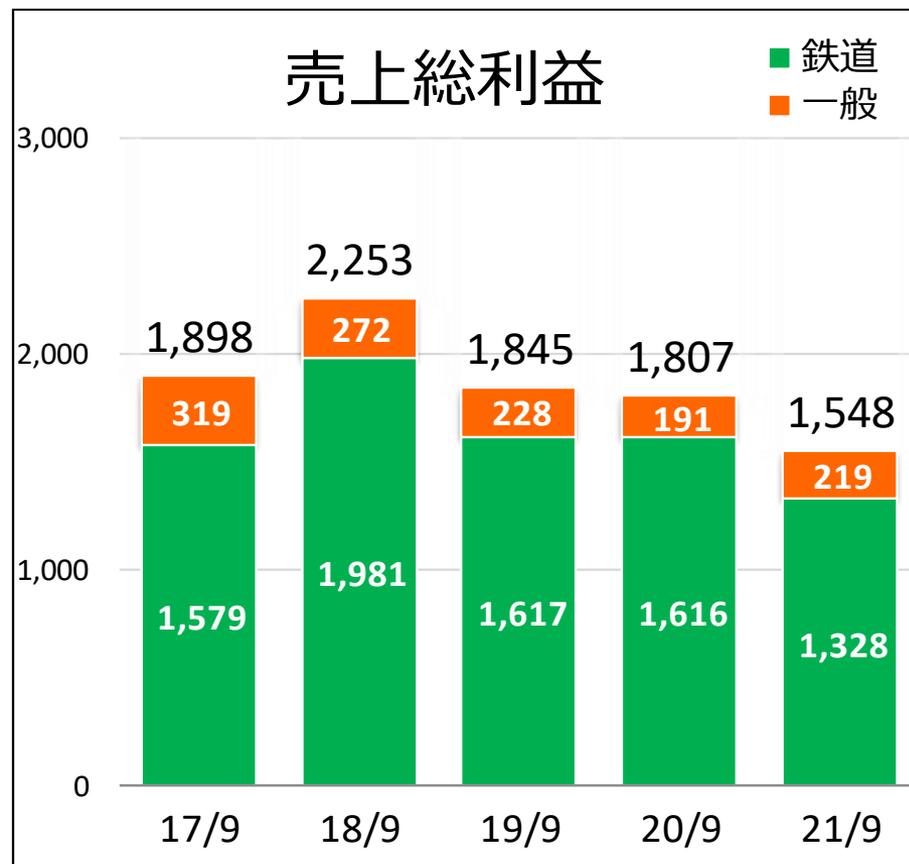
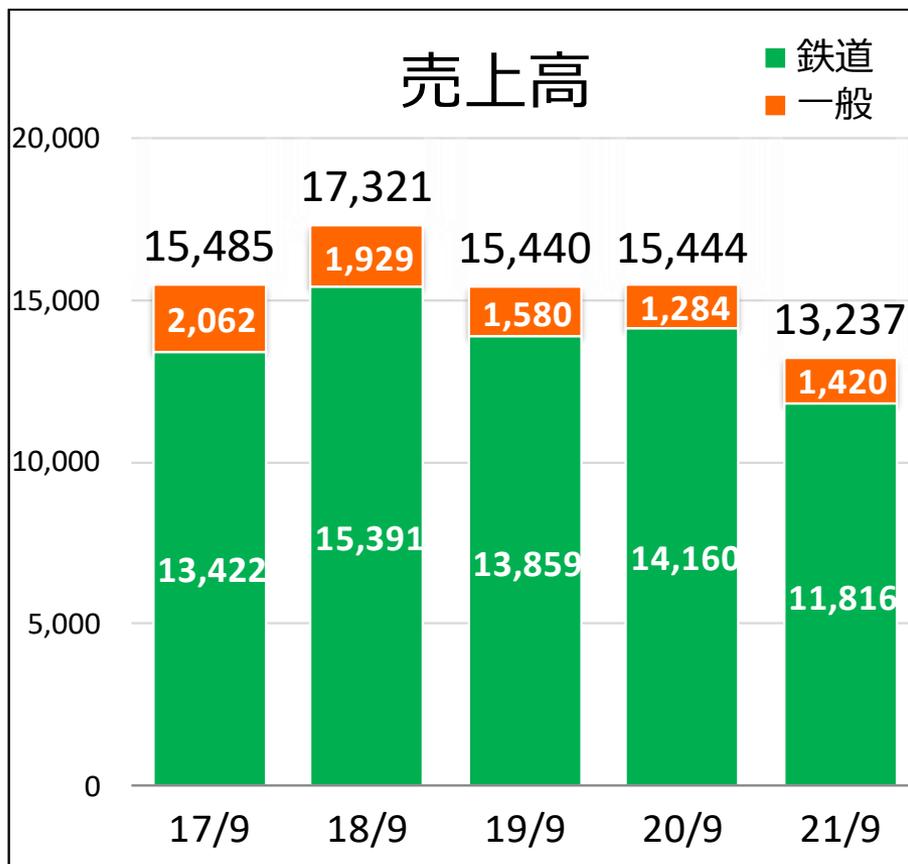


③ セグメント別業績の推移

【連結中間決算概況】

- ・ 鉄道事業 鉄道事業者や車両メーカー等に車体用品、電気用品等を販売
- ・ 一般事業 鉄道業界以外の産業機器メーカー等に電子部品等を販売

セグメント別 売上高・売上総利益推移



売上高は 鉄道事業▲16.5% 減少
 売上総利益は 鉄道事業▲17.8% 減少

一般事業+10.6% 増加
 一般事業+14.7% 増加

■ 車両周りをメイン分野とし、幅広い鉄道関連事業を展開

車体用品

鉄道車両を構成する各種機器 (電気用品以外)



ブレーキ制御装置



ドア開閉装置



表示器

電気用品

鉄道車両を動かすための各種電気製品



モーター



インバーター



計器

その他車載品

車両内で使用される搭載品など



ロールカーテン



殺菌装置用UVランプ



内燃用品

ディーゼルエンジン部品など



コネクタ・電子部品

車両搭載機器間や機器内を接続



鉄道車両用コネクタ

■ 車両周り以外にも、幅広く鉄道業界を支える

検修施設、駅などで使用するものや、電車の運行に必要なシステム、発電所・変電所の製品も扱う

各種設備品

車両検修施設などで使用する設備品



バッテリー式牽引車



簡易型輪重測定装置



集塵機



システム

電車の運行や、乗客案内などのシステム



運行管理システム



通信用機器

発電設備

発電から電車に電気を供給する設備



発電所設備



変電所設備

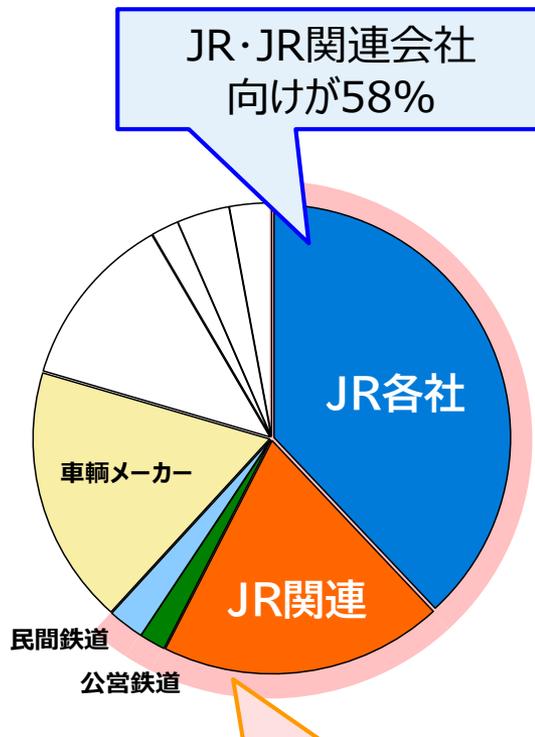
⑤ 鉄道事業の売上構成

【連結中間決算概況】

- 業界別では、鉄道事業者向けの販売が中心
- 商材別では、車両関連の商材販売が中心

業界別 売上高

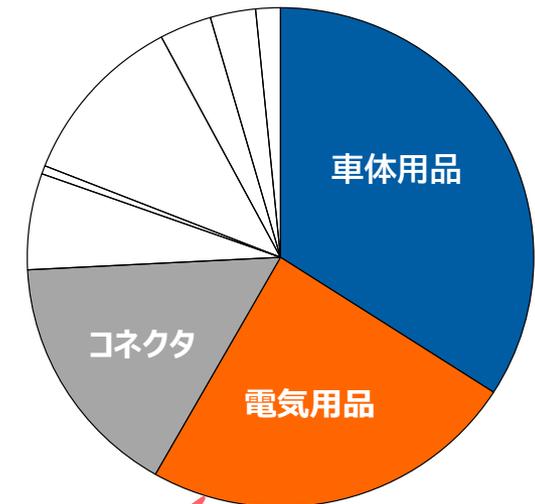
金額単位 (百万円)	21/9 累計実績
J R各社	4,499
J R関連	2,290
公営鉄道	210
民間鉄道	292
車輛メーカー	2,112
電機メーカー	1,430
信号メーカー	221
運輸関連	424
輸出入	338
計	11,816



鉄道事業者向け販売が62%

商材別 売上高

金額単位 (百万円)	21/9 累計実績
車体用品	4,028
電気用品	2,852
コネクタ・電子部品	1,888
その他車載品	736
内燃部品	64
各種設備品	1,327
システム	393
発変電設備	342
その他商材	186
計	11,816



主要3商材で
74%



■ 鉄道事業以外の販売先を対象に、主にコネクタ・電子部品などを販売

電力・強電 業界向け



EV充電器・
充電スタンド



電力用コネクタ



移動電源車



ウルトラファインバブル
生成装置



自動車用ミラー



自動車用コネクタ

自動車関連 業界向け

産業機器 業界向け



産業機器用コネクタ



船用コネクタ



エレベータ用コネクタ



建機用コネクタ



電線



ハーネス

電線・ハーネス 業界向け



⑦ 一般事業の売上構成

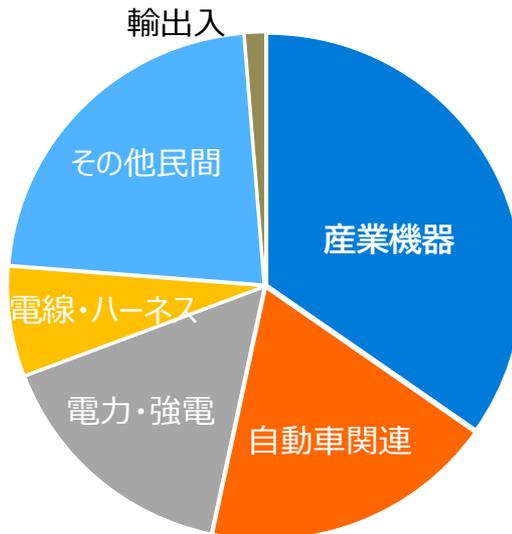
【連結中間決算概況】

YASHIMA

- 業界別では、産業機器やその他民間企業（自治体含む）が主力で、電力・強電や自動車関連がそれに続く
- 商材別ではコネクタ・電子部品が中心

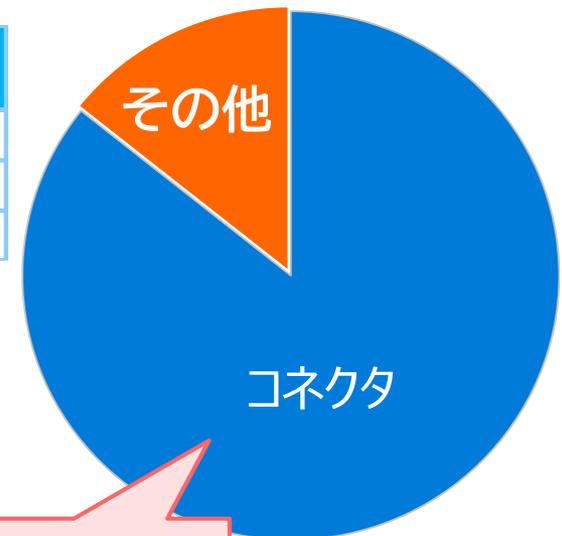
業界別 売上高

金額単位 (百万円)	21/9 累計実績
産業機器	494
自動車関連	264
電力・強電	226
電線・ハーネス	99
その他民間 (自治体含む)	319
輸出入	18
計	1,420



商材別 売上高

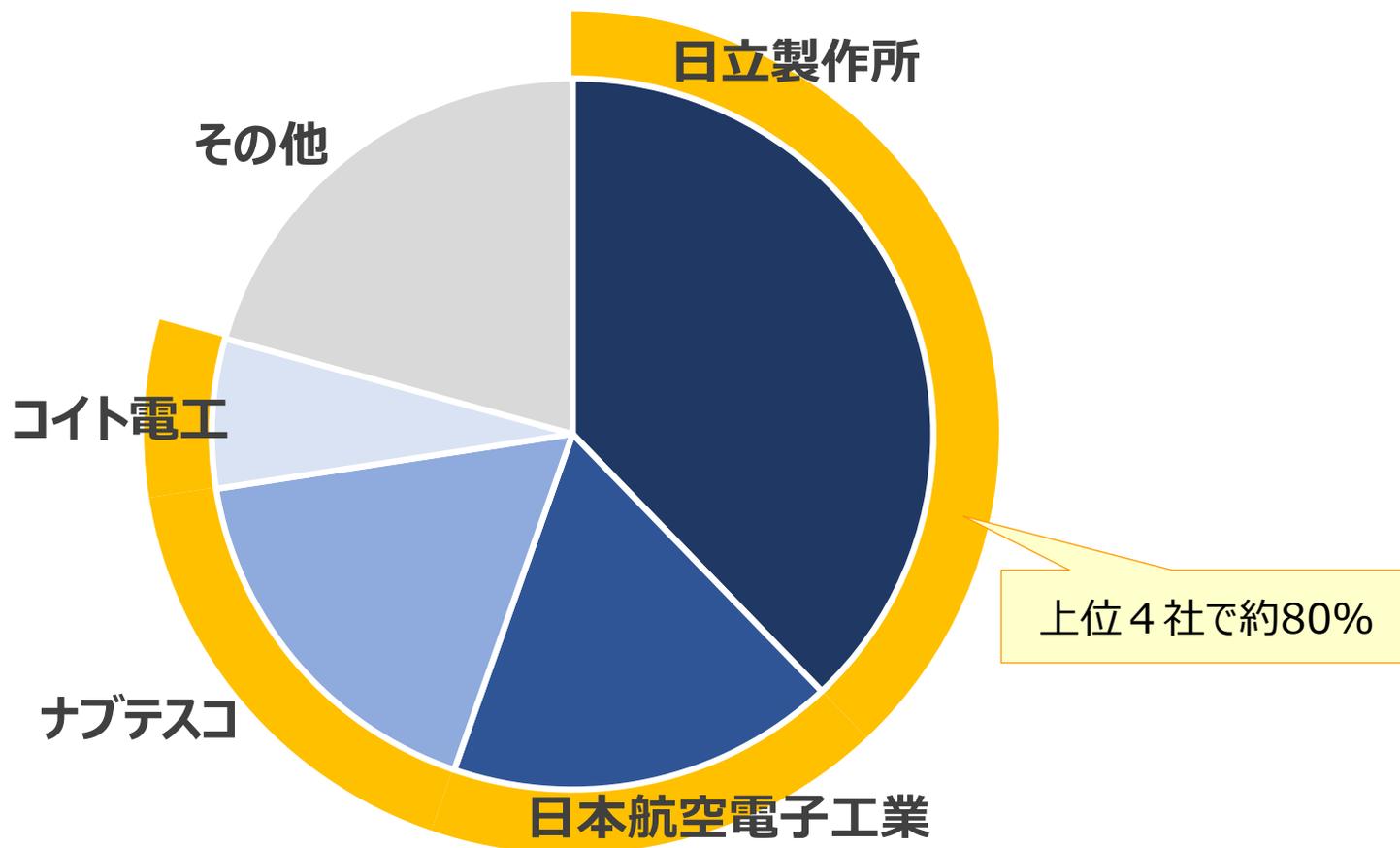
金額単位 (百万円)	21/9期 累計実績
コネクタ・電子部品	1,217
その他	203
計	1,420



コネクタ・電子部品で
86%

連結中間決算における、仕入先の構成は次のとおり

- 上位4社で約80%の構成比
- この構成比は、通期では概ね75%のため、若干高め





2. 2022年3月期 通期業績・配当予想

① 鉄道業界の現状

【前提：事業環境】

新型コロナウイルスの感染拡大による移動制限や活動自粛、テレワークの拡大等を受け、主要販売先であるJR各社では、営業収入が減少

昨年度に比べ徐々に回復傾向が出始めているも、コロナ以前の水準には遠く及ばず、営業収入は低迷中

当社では、JR各社単体：損益計算書におけるコストに相当する「営業費」のうち「修繕費」等の支出区分と「設備投資額」に着目

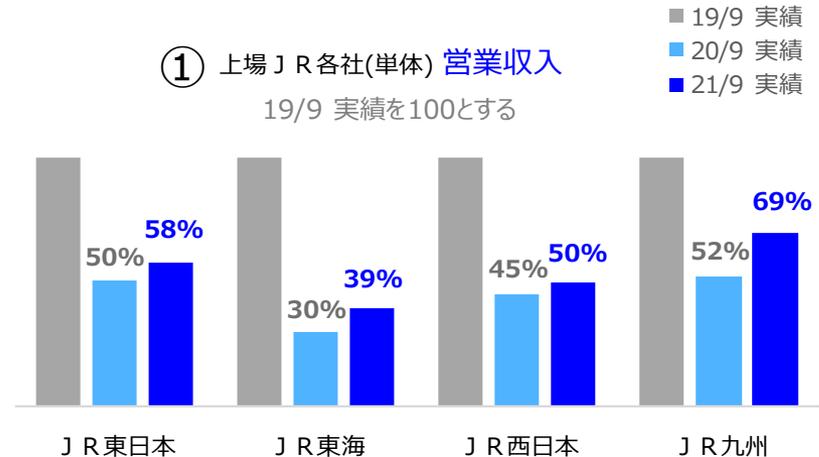
鉄道事業者では、コスト削減のため、急を要さない設備投資や各種修繕を絞る流れ

ただし、**安全確保に係る費用は維持される傾向**
また**コスト削減のための投資には意欲的**

⇒当社業績への影響は、鉄道事業者の営業収入の落ち込みに比べ限定的

① 上場JR各社(単体) 営業収入

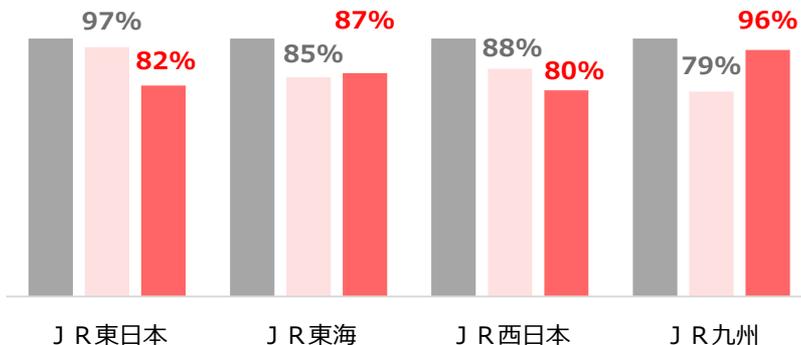
19/9 実績を100とする



② 上場JR各社(連結) 修繕費等

19/9 実績を100とする

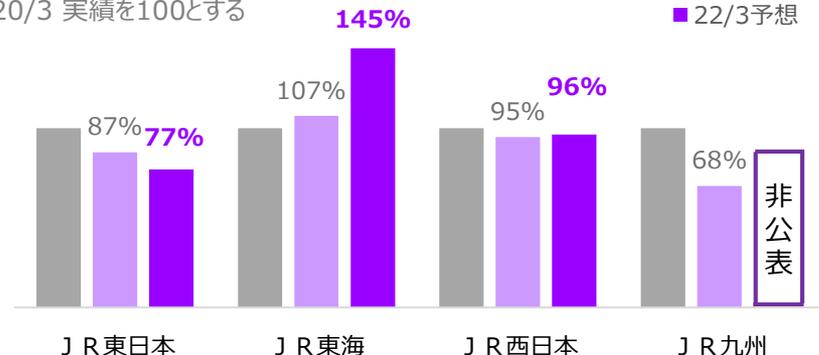
■ 19/9 実績
■ 20/9 実績
■ 21/9 実績



③ 上場JR各社(単体) 設備投資額

20/3 実績を100とする

■ 20/3 実績
■ 21/3 実績
■ 22/3 予想



JR東海の設備投資額は、リニア中央新幹線への投資があるため増加
JR九州は非公表も、連結で倍増見込であり、単体でも増加と予想

② 業績予想

【通期業績・配当予想】

YASHIMA

- 2021年5月発表の「決算短信」から2022年3月期・通期業績予想の変更は無し
(上期は赤字決算も、例年下期偏重型の収益構造で、保守需要で受注残高も前期水準を維持)
- 売上高は増収の予想も、案件や商材による売買差益率が異なり、売買差益は前期比マイナスを予想
- 他方、経済活動や営業活動の再開により、販売費および一般管理費は前期比プラスを予想しており、段階利益は大幅な減益の予想

金額単位 (百万円)	2021/3期 実績	2022/3期 予想	前期比	
売上高	31,828	32,786	+ 3.0%	特需案件等で 売上はプラス
営業利益	526	35	▲93.3%	特需案件等は 低マージン率 ⇒利益は伸びず
経常利益	653	164	▲74.8%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	279	100	▲64.2%	

記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当社は、株主に対する利益還元と内部留保の充実や、収益性、成長性、企業体質の強化等を総合的に勘案して、安定的な配当の継続維持を基本方針としております

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期 (予想)
1株当たり年間配当額	25.00円	25.00円	25.00円	25.00円
1株当たり当期純利益	185.80円	89.68円	98.49円	35.21円
配当金総額（合計）	64百万円	70百万円	70百万円	—
配当性向（連結）	13.5%	27.9%	25.4%	71.0%

2022/3期の当期純利益は前期から減少する予想ですが、安定継続配当の面から
1株当たり年間配当額は25.00円を維持いたします



3. 2022年3月期～2024年3月期 中期経営計画

基本目標

ポストコロナに向け、安定成長軌道への回帰

事業環境の変化を見据え、新たな企業価値・存在価値の創出

2024年3月期 ROE 5%

事業環境の変化

日本国内



鉄道事業者は、テレワーク普及等の構造変化で定期券収入等減少

- ・中期計画の下方修正・後ろ倒し
- ・設備投資予算の削減 等

海外諸国



コロナ禍による社会の変化の他、別の要因による政情の変化等発生

- ・鉄道プロジェクトの停滞や遅延
- ・海外渡航や営業活動の制限 等

急激な市場の回復は見込めず、

緩やかな成長

を目指す計画に

1 鉄道セグメント

**既存事業基盤の強化
による
持続的成長の実現**



**事業領域拡大
高付加価値サービスの提供**

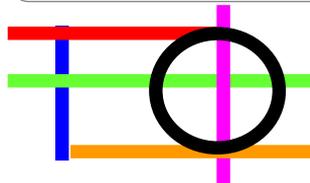
車両回り中心の
既存事業基盤の強化



新造車両
更新需要
性能向上
延命・改造案件

既存仕入先との関係強化
新規仕入先の開拓による
商権・商材の拡充

「公営鉄道」「民間鉄道」
への注力と受注拡大



大手民鉄16社
関西地区に注力

JRへの販売は根幹として維持しつつ
拡販人員増強等で公民鉄へのシェア拡大

検修設備・保線等
車両周辺領域への深耕



工事契約受注のため資格者の確保
保線・設備分野の商材開拓による新分野進出

顧客のニーズ・課題の把握
新たなビジネスモデル創出



予算削減に配慮した
初期費用削減提案



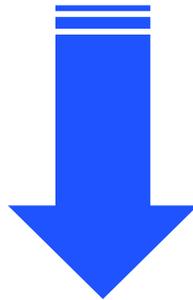
ニーズに沿った商材拡充

2 一般セグメント

収益性向上、投下リソースに見合う採算を確保できる体制構築

人的リソースの適正配置

注力客先への
集中した営業展開



業務効率化
生産性の向上

- ・基盤としてのコネクタ販売
→窓口集約やR P A化で
コスト削減と収益性の向上



- ・ネクスコ各社への注力

ネクスコ東日本

専任グループによる
全国横断的な拡販

ネクスコ中日本

ネクスコ西日本

サバイバル電源



融雪装置



移動電源車



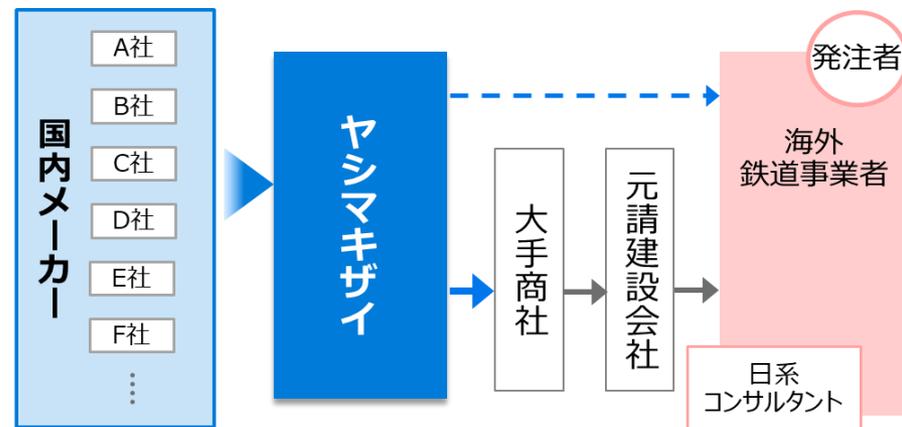
3 海外事業

グローバル市場の開拓・ODA 鉄道インフラ整備案件への参画促進

現地パートナーとの連携強化

現地において3現主義の「現場」での対応力を向上させる

ODA 案件に対応できる体制整備



国内メーカーと海外鉄道事業者等を結び付け、仕様や納期の調整や、大手商社が持たない中小メーカーとのパイプ役としての参画をめざす

中長期的な商圈拡大

納入先、納入元企業との関係構築により、鉄道インフラの維持を長期的にフォロー
ODA 後の保守需要等、長期的収益源確保

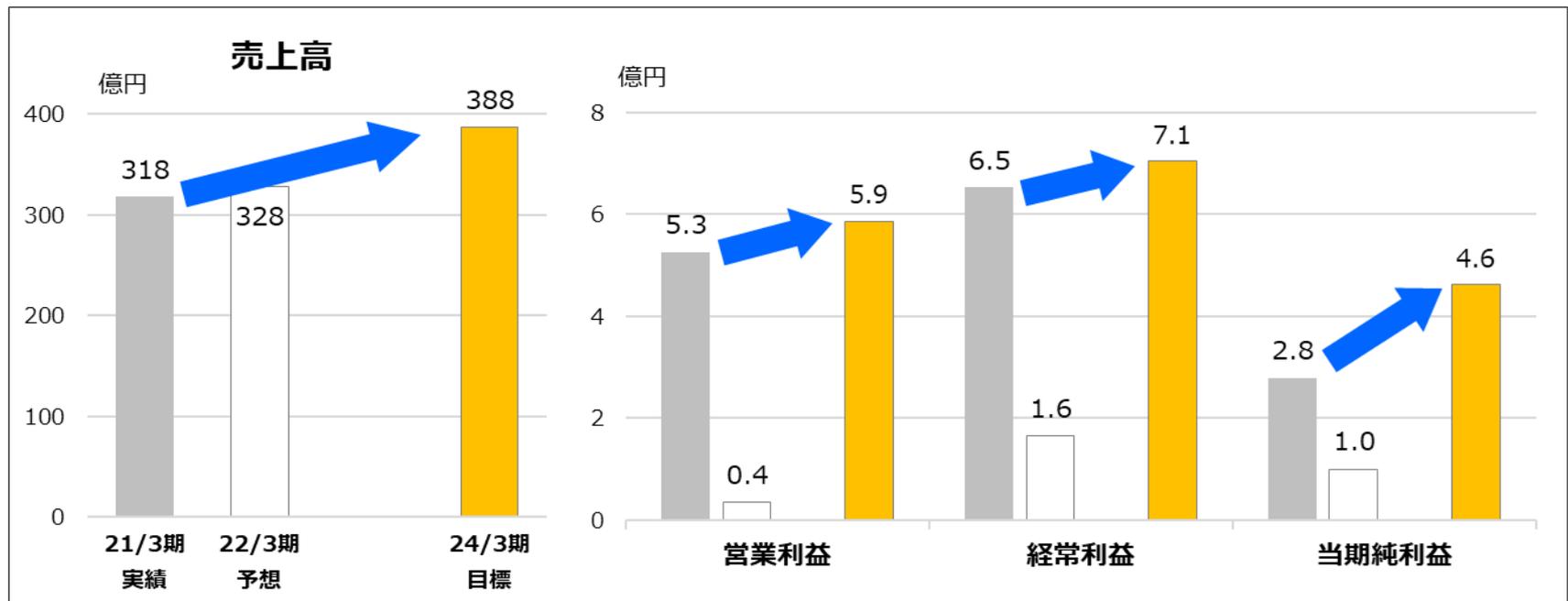
③ 数値目標（連結）

【中期経営計画】

YASHIMA

金額単位 百万円

	2021/3期 実績	2022/3期 予想	2024/3期 目標	2021/3期 比較
売上高	31,828	32,786	38,761	+21.8%
営業利益	526	35	586	+11.4%
経常利益	653	164	705	+8.0%
当期純利益	279	100	462	+65.6%
ROE	3.2%		5.0%	



4. トピックス

1. 保線分野への注力

J R 各社への拡販として、基盤である車両周辺分野から、検修設備・保線領域への深耕を図っております。具体的には保線機械として次の販売実績を得ました。

J R 東日本向け マルチプルタイダンパー (マルタイ)

マルタイとは、ディーゼルエンジンで軌道上を自走し、レールを持ち上げ、砂利を突き固める工程を連続して行うと同時に、検測装置を搭載しており、データと照合しながら進めることができます。



J R 西日本向け フラッシュバット レール溶接機

フラッシュバット レール溶接とは、接合するレール両端に電流を通じて溶接するものです。



溶接されたレール

マルタイもレール溶接機も海外メーカーの製品です。

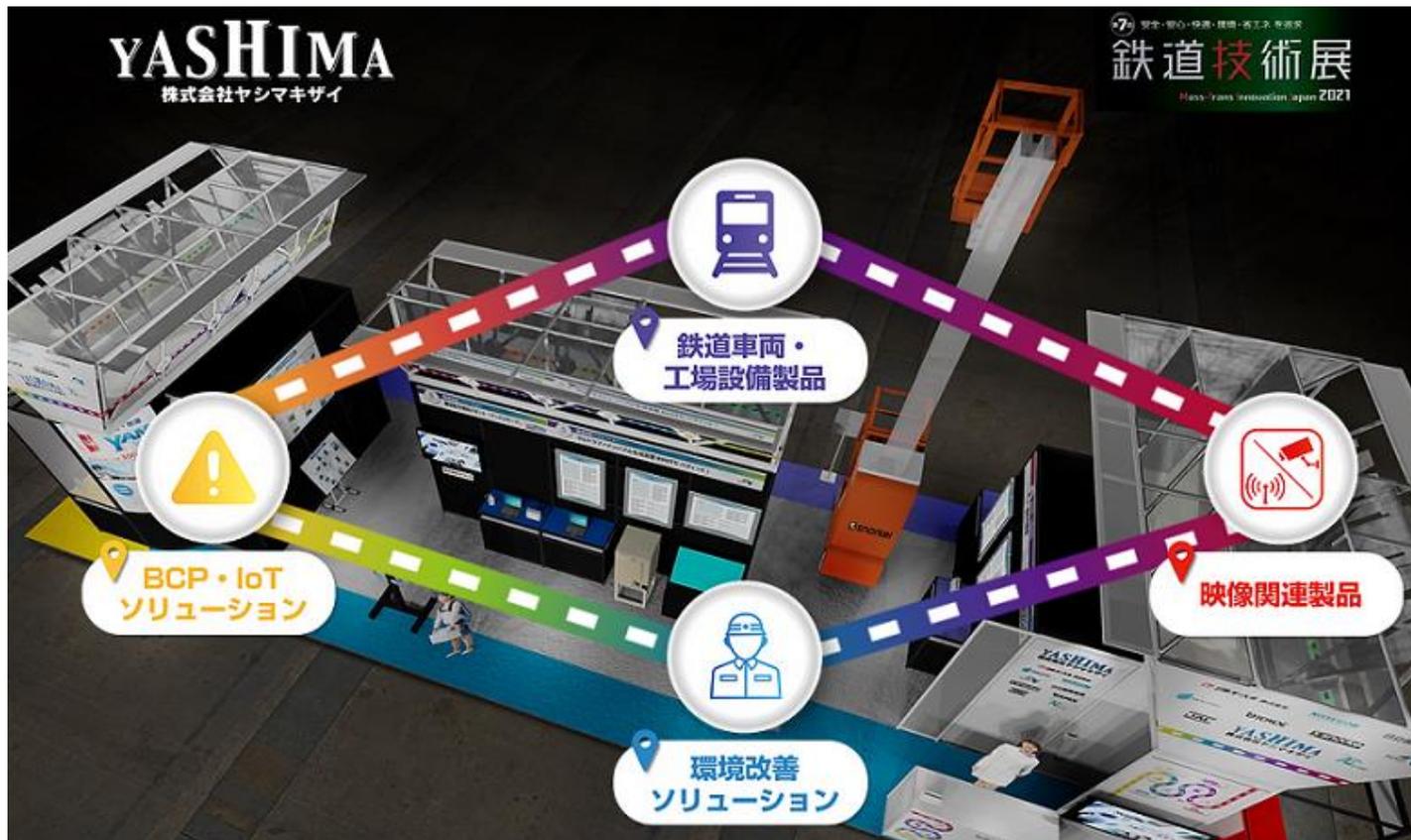
マルタイは、前期までに2台(両)を納入して、今期3台目を納入します。

レール溶接機は、前期初めて納入実績を得ました。

これらの納入実績も踏まえて、今後、保線分野からの引き合いを増やしていきたいと考えています。

2. 鉄道技術展への出展

営業活動の一環として、『第7回鉄道技術展2021』に出展しました。
展示会は終了しましたが、当社独自のバーチャルブースにて、展示品の動画やパネルの公開をしています。 → <http://yashima-mtij2021.com>



3. 感染症対策商品の販売

長期持続型の抗菌・除菌「Y A Mシリーズ」を販売しています。

「Y A Mシリーズ」の鉄道車両施工実績は**3000両以上**になりました。

また、鉄道車両以外にも宿泊施設や商業施設等に採用いただいております。

2021年11月
新たにJR四国様
にも採用いただきました。

抗菌・抗ウイルス
コーティング剤

と

除菌剤

をラインナップ

多くの公共空間でご採用、安心安全な製品です

抗菌タイプと除菌タイプを用意。抗菌タイプは手軽にコーティング施工ができるエアゾール缶式と、コスト面で有利な液体での提供を選べます。除菌タイプは抗菌コーティング面を保護しながら除菌や汚れの除去ができ、接触感染防止効果を維持できます。

※ 抗菌は空間内を無菌にすることではありません。

抗菌タイプ		除菌タイプ	
	リキッド -YAM-R 18L/ 箱	ルーム -YAM 420ml/ 缶	リキッド -YAM(除菌用) 18L/ 箱
使用イメージ			
対象部位	車両内の広範囲にわたる部分、つり革、持ち手、シート、ドア、壁（天井・床・窓以外）等	車両内のつり革やシート等、椅子やテーブル、及び照明スイッチ等の比較的小面積の対象物	車両内及び室内全般
施工方法	スプレーガン（お客様準備）による吹き付け	エアゾール缶による吹き付け	ハンドスプレーを使用し、ウエス等で均一に伸ばして拭きあげる

4. サステナビリティ

ヤシマキザイグループは、SDGs（持続可能な開発目標）の趣旨に賛同しています。私たちが今できることを、具体的行動に移し、SDGsが掲げるゴールを目指します。

地球温暖化や大気・水質汚染の防止

ペーパーレス化を通じた森林破壊の抑制・地球温暖化や水質汚染の防止

タブレット導入によるペーパーベースの会議資料の削減・精算システム導入による書類削減等に取り組んでいます。



社会貢献活動

医療・環境・教育団体へ寄付を通じ、社会貢献活動に従事

当社および株主優待経由で、日本赤十字社・WWF ジャパン・日本学生支援機構への寄付を行っています。備蓄食料をフードバンクに寄付しています。



社員が働きやすい環境作り

働き方改革や健康経営の推進により、ダイバーシティとワークライフバランスの実現を目指す

ダイバーシティやLGBTへの理解向上への研修や、健康診断受診率向上への取組みを実施しています。テレワークや時差勤務、ノー残業デー等の取組みを進めています。



5. 東証「スタンダード市場」の選択 申請 を決定

ヤシマキザイは、2021年10月14日付で株式会社東京証券取引所（以下、「東証」）より、「新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する二次判定結果について」の通知を受領し、「スタンダード市場」の上場維持基準への適合を確認いたしました。

この結果に基づき、当社は2021年11月12日開催の取締役会において、2022年4月4日に予定されている東証の新市場区分への移行において「スタンダード市場」を選択申請することを決議いたしました。

今後、東証の定めるスケジュールに基づき、新市場区分の選択申請に係る所定の手続きを進めてまいります。



6. 株主優待制度について

2020年、毎年9月末に100株以上を保有する株主様を対象に、株主優待制度を導入しました。株主様の日頃のご支援への感謝と、当社株式への魅力をより一層高め、中長期的に保有いただける株主様の増加を図ることを目的としています。

株式数に応じてポイントが贈呈され、そのポイントを特設サイト「ヤシマキザイ・プレミアム優待倶楽部」にて、2000点以上の商品からお好みの商品をお選びいただけます。

(社会貢献活動への寄付も可能です)

YASHIMA
株式会社ヤシマキザイ



Premium
プレミアム優待倶楽部



2021年度は、小湊鐵道 様のご協力の下、オリジナル企画セットを提供

新型コロナウイルス感染症の影響は予断を許さず、当社を取り巻く環境も厳しい状況にありますが、当社はその活動を通じてステークホルダーの皆様、そして社会に役立てるように努めてまいります。

本日はご多忙中にも関わらず、セミナーにご参加を頂きまして、ありがとうございました。

これからもヤシマキザイをよろしくお願い致します。

ご清聴、ありがとうございました。

株式会社ヤシマキザイ

2021年12月 3日 個人投資家向け I R セミナー

(会場：日経茅場町別館 B1F カンファレンスルーム)

YASHIMA



5. ご参考資料

社名	株式会社ヤシマキザイ 【英文名】Yashima & Co.,Ltd.					
本社	東京都中央区日本橋兜町6番5号					
代表者	代表取締役社長 高田 一昭					
設立	1948年10月28日					
資本金	9,990万円					
従業員数	267名 (2021年3月末現在)					
事業内容	鉄道関連製品と産業用電子部品の販売、メンテナンスサービスおよび輸出入					
連結子会社	名称	住所	資本金	事業内容	議決権の所有 (又は被所有)割合	関係内容
	ヤシマ物流 株式会社	東京都 中央区	40,000 千円	鉄道事業、 一般事業	100.0%	物流業務等の委託
	亜西瑪(上海) 貿易有限公司	中国 上海市	1,000 千US\$	鉄道事業、 一般事業	100.0%	商材の仕入・販売 借入債務の保証 役員の兼務 4名
	※両社とも特定子会社 ※有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。					
海外拠点	デリー支店、ミャンマー支店、ハノイ駐在員事務所、ジャカルタ駐在員事務所、 マニラ駐在員事務所、ロンドン事務所、ムンバイ事務所 ■上海会社(現地法人)：上海・青島・深圳					

【経営理念】

- 一. ヤシマキザイは、鉄道・交通ビジネスに強い専門商社として、限りの無い成長を目指します
- 二. ヤシマキザイは、人材育成を通して、会社の成長を社員と分かち合います
- 三. ヤシマキザイは、法令を遵守し、良き企業市民として社会に貢献します

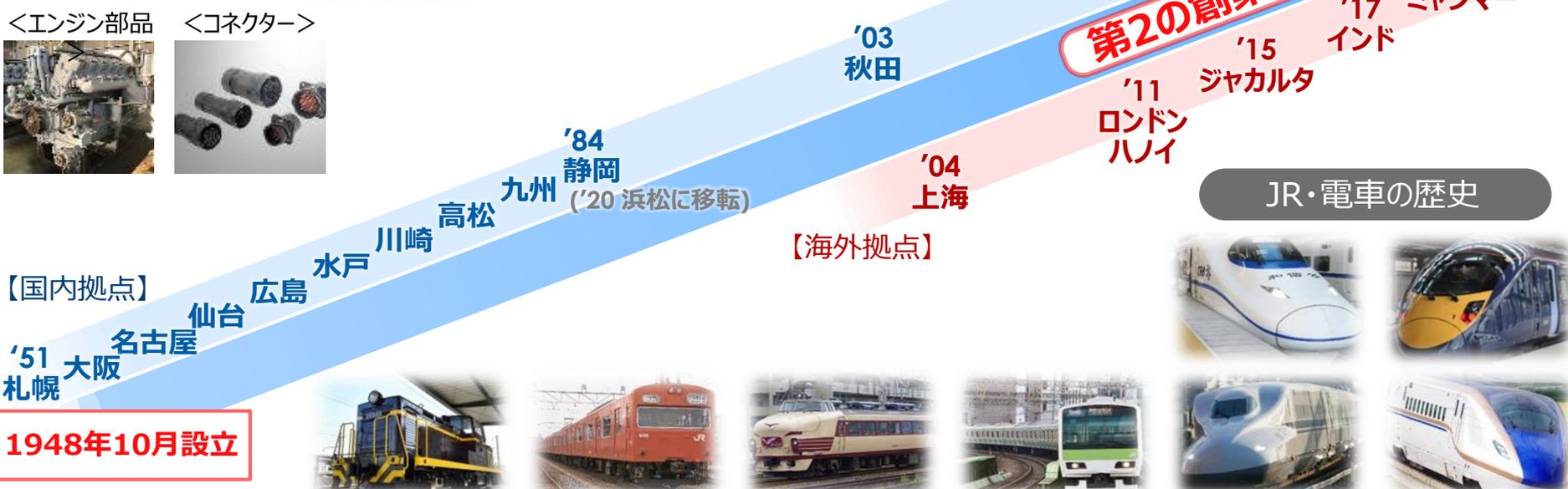
【行動準則】

- 一. 3現主義（「現場」「現物」「現実」）を基本にして行動する
- 二. コンプライアンス行動原則に基づき行動する

年月	概要
昭和23年10月	香西角三郎他6名を發起人とし、資本金25万円で東京都中央区に八洲器材株式会社として設立
昭和26年8月	振興造機株式会社（現 神鋼造機株式会社）と代理店契約を締結
昭和37年4月	株式会社日本エヤーブレーキ（現 ナブテスコ株式会社）の販売代理店となる
昭和40年10月	株式会社日立製作所「鉄道車両用品」の旧国鉄向け販売代理店となる
昭和46年8月	神鋼電機株式会社（現 シンフォニアテクノロジー株式会社）の販売代理店となる
昭和52年10月	日本航空電子工業株式会社「コネクター及び同関連製品」の特約店となる
平成2年4月	小糸工業株式会社（現 コイト電工株式会社）「鉄道車両部品」の特定地区向け代理店となる
平成7年4月	東京都中央区に子会社ヤシマ物流株式会社設立（100%出資）
平成16年4月	中国現地法人 亜西瑪（上海）貿易有限公司を設立（100%出資）
平成20年1月	三友物産株式会社を子会社化（100%出資）
平成23年10月	日立三菱水力株式会社「水力発電システム」の販売代理店となる
平成25年11月	本社を現所在地に移転（東京都中央区日本橋兜町6番5号）
平成25年12月	当社の商号を株式会社ヤシマキザイに変更
平成29年4月	三友物産株式会社を吸収合併
令和元年6月	東京証券取引所 市場第二部に上場

■ 1948年に設立、旧国鉄との取引から始まり70年、鉄道の発展に寄与し成長

ヤシマキザイ主要商材



JR・電車の歴史



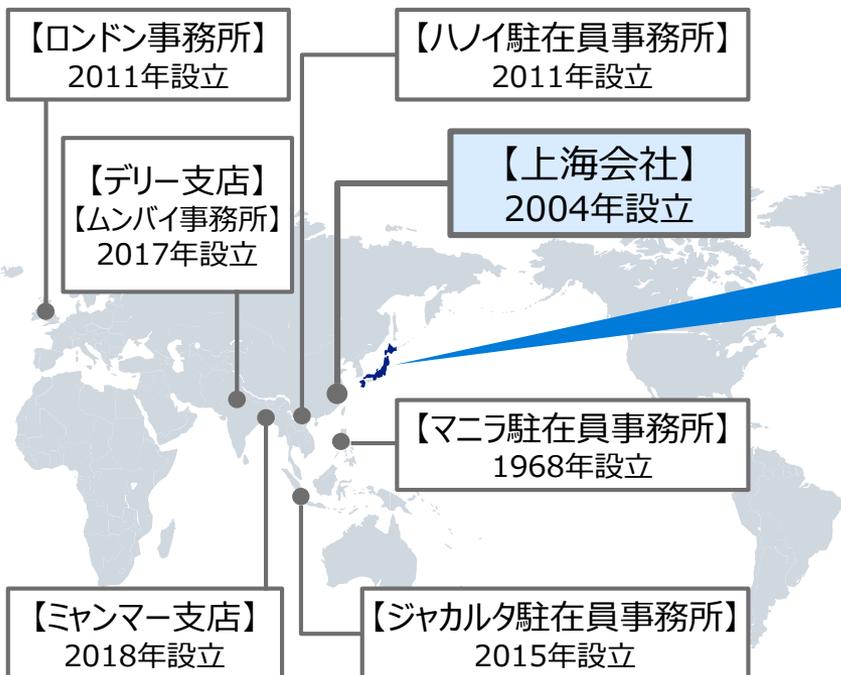
1948年10月設立



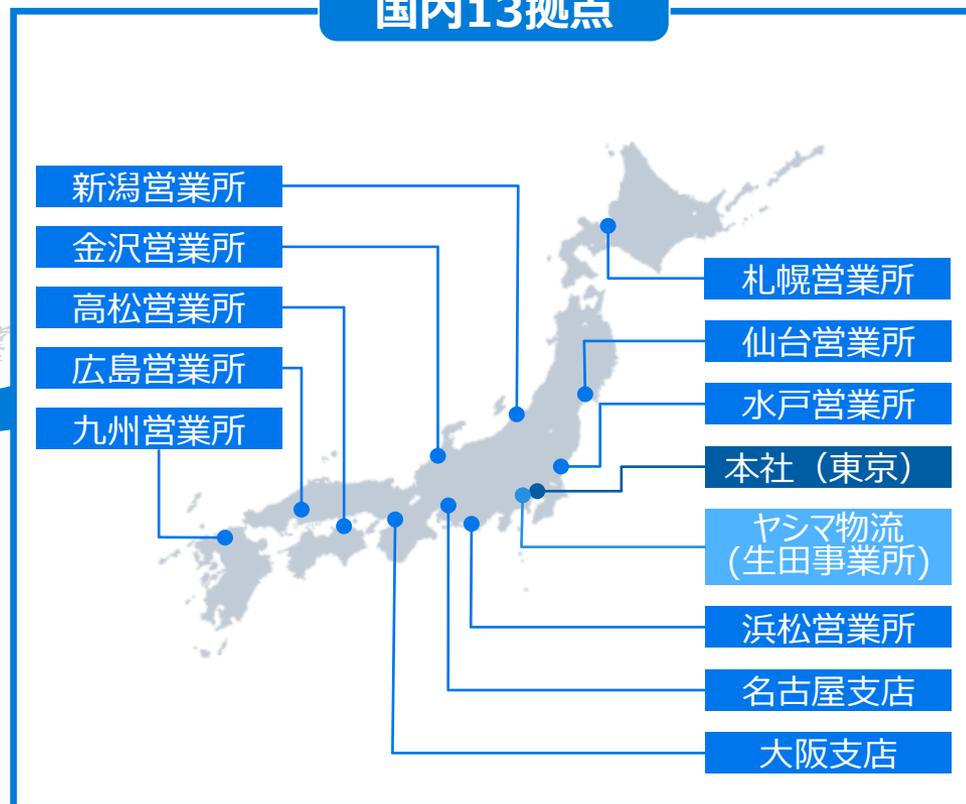
- 日本全国を網羅する13拠点に加え、海外への展開を進めています

海外8拠点

■ 連結子会社 □ 支店・駐在員事務所



国内13拠点





東証二部 証券コード：7677

株式会社ヤシマキザイ

<https://www.yashima-co.co.jp/>

【お問い合わせ先】 経営企画室

TEL : 03-4218-0096

E-mail : contact-ir@yashima-co.co.jp

YASHIMA